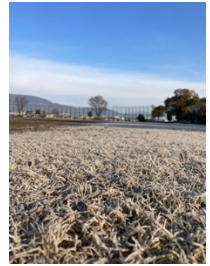


途上

信州大学教育学部附属長野小学校学校だより

文責：教頭



令和7年も残りわずかとなりました。今回は、12月1日(月)に行いました今年最後の校長講話の様子をご紹介します。

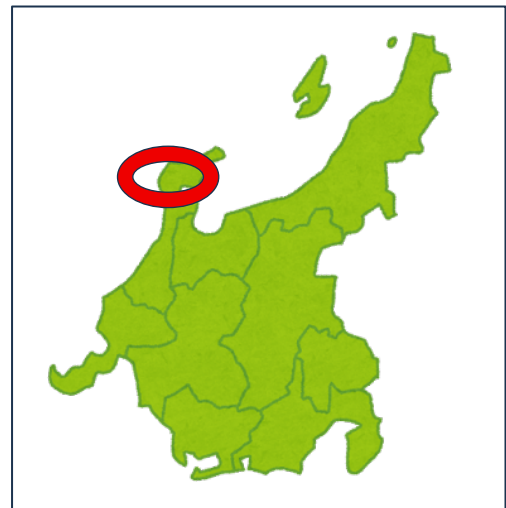
人のために動くこと(12月1日 校長講話)

みなさん、おはようございます。今年度5回目の校長講話になります。今回はインフルエンザがはやり始めたことを考え、オンラインでのお話となります。どうぞよろしくお願いいたします。今日お話をしたいことは「人のために何かしたい!」です。人のために何かしたいと思っているのは私、中澤卓二です。校長先生がなぜそんな気持ちになったのかを今日はみなさんに聴いてもらえたらと思っています。

突然ですが、先生は長野市穂保というところに住んでいます。そして穂保にある六地藏町獅子保存会という獅子舞をする会に入っています。ちょうど一週間前の先週11月24日の月曜日にある場所で獅子舞をしてきました。ちなみに校長先生がどこかにいるか分かりますか(右写真)。先生は太鼓と唄を担当していますので、正座をして太鼓を叩いているのが先生です。春祭りや秋祭りではないのに、なぜ獅子舞をしてきたかというと、ミニスーパーとカフェが合わさった「とうげマルシェ」というお店のオープンイベントに呼ばれたためです。



この「とうげマルシェ」がどこにあるかと言いますと、これは中部地方の地図ですが、私たちが住む長野県、そして長野市はここです。お隣の富山県、岐阜県を飛び越えたこの県は何県でしょう? 5年生、6年生はわかるかな…(右図)。



正解は石川県です。その石川県の輪島市門前町道下(もんぜんまちとうげ)というところに「とうげマルシェ」があります。この道下(とうげ)まで行くのに夜中の12時過ぎに車で出発して、朝の6時頃に着きました。片道6時間弱かかる遠い場所です。なぜ校長先生たちは片道6時間くらいかけて「とうげマルシェ」のオープンイベントで獅子舞をしてきたかというと、先生が住む長野市穂保と輪島市門前町(もんぜんまち)道下(とうげ)に共通して起こったある出来事がきっかけです。それは何かと言いますと…大きな災害があったことです。昨年、令和6年に石川県では大きな地震が、そして令和元年には長野県では、洪水が起こりました。

石川県の地震は、今からおおよそ2年前の令和6年1月1日の元旦に起きました。皆さんの中には、記憶にある人もいでしょう。地震の規模はM7.6で、輪島市と羽咋郡志賀町(はくいぐんしかまち)で最大震度7を観測しました。写真の通り、建物が倒れてしまうくらいのもとても大きな被害が出ました。(写真を見せて)これはビルが倒れているんですよ。そして今でも大変な生活をしているみなさんがたくさんいます。

長野県の災害は、令和元年、今から6年前、台風19号による大雨により起こりました。1、2年生は、覚えていないかもしれませんが、5、6年生は記憶にある人もいるかもしれません。10月13日の夜中に千曲川の堤防が切れて、たくさんの水が家々を襲いました。豊野にある新幹線の車両センターも、新幹線が水につかってしまいました。(地図を示しながら) その切れた堤防はどこかといいますと…、附属小がここです。その堤防は、附属小から5キロちょっとの場所、穂保の近くにあります。校長先生の家は堤防が切れた場所から直線距離で700～800mくらいのところ、10分ほど歩いて着く場所にあります。ということは…先生の家は、先生の背くらいまで水につかってしまい、住めなくなっていました。この写真は先生の家の中から運び出したテーブルや本棚などの家財道具たちです(右写真)。その当時先生はこれからどう生きていけばいいのか、どうくらしていけばいいのか、不安な気持ちでいっぱいになり、気持ちがとても落ち込みました。



そんなときに手を差し伸べてくれたのは、自衛隊の方や赤十字の方、北海道から沖縄まで、高校生からお年寄りまで全国各地から集まってくださった、たくさんのボランティアの方々でした。また当時、先生の子どもが附属中と附属小にいたので、先生方が家の周りの泥をすくってくれたり、PTAのみなさんからタオルなど生活に必要なものをたくさんいただいたりしました。なんとありがたかったことか。感謝してもしきれない思いでした。多くの方が手を差し伸べてくれたおかげで、気持ちが少しずつ前向きになっていきました。

でも、助けてもらっただけで、何もしていない、何もできない自分にずっと心の中でモヤモヤしていました。「自分にも何かあのときのみなさんのように何かできないかな」と、あれからずっと思っていたのです。機会があれば何か人のためにできることをしたいと思っていたのです。

そんなときに、「とうげマルシェ」から、オープンイベントで獅子舞をやってくれませんかというお願いがあったということを知りました。獅子舞保存会に入っているみなさんもそれぞれ都合がありますから全員が参加することはできません。先生は「これは少しでも人のために何かできる、恩返しができるチャンスだ」と思って、参加させていただいたのです。今画面に映っているのは、翌日、11月25日の信濃毎日新聞の記事です。「被災の痛み分かるから 能登に力を 長沼の舞」という見出しが出ています。道下(とうげ)のみなさんが少しでも喜んで元気をだしてくれたら、先生、うれしいなと思っていますし、何よりも自分自身が晴れやかな気持ちになりました。

先生は、今回の経験で、自分のことだけでなく、人のために自分が動くことって大切だなと改めて思いました。人のために動くことは自分自身に大きな喜びを与えてくれます。このことは、何も大きな目立つことをすればよいということではありません。私たちの学校生活の中にもたくさんできることはありますよね。例えば、委員会の当番活動やクラスの係活動、給食当番、今頑張っている掃除などなど。

きっとその先には先生の3つの願いの一つ「友達を大切にすること」にもつながっていると思うのですが、みなさんはどう考えますか。

今日から12月です。校舎の周りも少しずつ秋から冬の景色になってきました。令和7年の登校日数も今日を入れて18日、令和7年度も残り4か月です。[共に在る]私たち。自分の周りには友達、先生、生き物、校舎を今まで以上に大切にしながら、よい1年のまとめをしましょう。今日も静かに聴いてくれてどうもありがとうございます。以上で校長講話を終わりにします。

(12月1日 校長講話より)

安全パトロールのお礼(おかげさまで)

今年度の登下校の安全パトロールが終了しました。上級生が下級生を気遣う姿や、号車ごとに並んで待つ姿など、みなさまのご感想からは、おかげさまで、年度当初に比べ、子供達の乗車マナーが向上してきている様子が伺えます。引き続き学校においても職員が乗車しての指導や登下校の安全指導を続けてまいります。ご協力いただきありがとうございます。